

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
<もみじ>					
	42	嚥下状態が悪い方は、介助にて食物残渣を取り除いたり、口腔ケアをするが、うがいができず、また歯磨きの動作がむずかしくなった方もあり、口腔内の清潔を保ちにくくなっている。	口腔内を清潔にし、爽快感を感じてもらい、気持ちよく過ごしていただく。	口腔ケアの意味の理解と、手技や利用者にあった道具などを工夫していく。声かけやタイミングなども考え、できる人には継続できるよう支援していく。	3ヶ月
2	49	身体的な介助が多くなり、時間的・労力的な必要が多くなり、レクリエーションや会話の時間が減っていて、楽しみの時間が減っている。	・生活に楽しみを見出し、会話を通して、ご本人の望む姿の理解に繋げる。 ・楽しみを通して、利用者同士のつながりの橋渡しをし、居心地の良い場所作りをしていく。	下肢筋力の低下を予防する運動なども取り入れながら、利用者の好みや意欲、残存能力などを考え、身体を動かし、心も動くようなレクリエーションを工夫していく。それを実践できるよう、生活の流れの中に時間を取って組み入れていく。外出・外食などの機会を増やしたり、行事などにも取り組んで季節感を感じ、気分転換に繋げる。	3ヶ月
3	40	嚥下の状態に合わせて、ミキサー食やゼリー状、とろみ等の工夫をしているが、食材によっては難しい物やひとつひとつの味がわからなくなったり、工夫が難しくなっている。食欲や摂取量にも影響している。	・誤嚥を予防する。 ・口から食べる楽しみを続け、味わったり、臭いをかいだり、皆と一緒にテーブルを囲み温かみの中で過ごしていただく。	・嚥下の状態を把握し、食事の形態を工夫する。 ・ひとつひとつの食事の特徴を生かしながら、味や形態の工夫をして、食欲に結び付けていく。 ・市販の介護食の利用も検討する。 ・摂取量を確認指定、体調管理をしていく。	1ヶ月
4	30	気持ちを落ちつかせる薬や周辺症状の緩和のための薬が増えている。新薬への切り替えなど服用に対しての観察を必要としている。	安心・安全に穏やかに過ごしていただき、その人らしさが見える環境づくりをしていく。	・気持ちや周辺症状について、職員間で起こっている背景やケアについて、情報を共有する。 ・ドクターや訪問看護師と連携し、服薬の観察、見守り方を共有する。 ・その人らしさについて考え、環境を整え、穏やかな生活へ繋げていく。	3ヶ月
5	6	徘徊の方やふらつき、転倒のある方が増えて、事故防止が優先し、利用者の行動を抑制してしまうことがある。	安全に配慮しつつ、環境を整え、自由に楽しく生活していただく。	・普段の行動をよく観察すること。またヒアリハットなどを活用し、事故予防の為のアセスメントを行う。職員間で情報を共有し、安全のための見守りの方にも工夫をして、自由な雰囲気の中で生活していただけるよう環境を作っていく。 ・職員間で話し合ったり、研修に参加したりして、学んだことを共有したりして、尊厳についての理解を深め、ケアの方向性を確かめ合って、より良いケアに繋げていく。	3ヶ月

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
<たけ>					
1	27	ケース記録の取り方が、援助計画に伴った視点からの記述とならないことが多く、ケアマネジメントに基づく記録のあり方につながらないことが多い。	援助計画の課題を意識して観察・洞察力をつけ、記録ができるようにする。	各職員が持つ援助計画の課題意識を、利用者の言葉から拾い上げたことをメモとるなどを心がけ、一連のつながりを理解下上での記録とする	3ヶ月
2	38	身体介護による個別対応の必要な方が多くなることより、今まで行っていた体操などに取り組む時間が短くなってきている。	午後に有効に活用して施設全体にて企画を考え充実した時間をつくる。	ユニット単位ではなく施設全体にて、ドライブに出かけたり、おやつ時などにミニパーティーなどを行う。	3ヶ月
<ぼたん>					
1	38	職員の人数制限がある中で、重度化した利用者の行動障害の対応に手を取られ、生活の楽しみとしてのレクリエーションやイベントの実践が難しくなる。	・6名のフロアーなので、他のフロアーともイベント企画を考え、交流を深めるながら季節感をもっと組み込んだ催しを考える。 ・全館での身体的にまだまだお元気な方の集まりと重度の方々の一同にした行事では、それぞれにあった居心地の良い雰囲気の中での時間を過ごす。	・月に一度、各フロアーを訪れ、交流の中でおやつ作りをすることで、重度の方も五感を通じ楽しんでもらう。 ・元気な方は外食に出かけたり、ドライブに出かける一方、重度な方同志ゆっくりとコミュニケーションをとり、くつろげる時間を過ごす。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。